

組織現勢 (7月1日現在)

組合員数 25,015 世帯
 出資口数 94,574 口
 6月の新規加入 15 世帯
 6月の増資口数 690 口

No. 332 再生紙を使用しています。

城南の保健

発行所
城南保健生活協同組合
 本部事務局 大田区大森中1-22-1 2階
 TEL (3762) 0266
 振込銀行 さわか信用金庫大森支店
 口座(普) 0469459
 発行 「城南の保健」編集委員会
 毎月1回発行・定価1部 30円

6月19日(土)
**第35回
 通常総代会**

ひとりぼっちをなくし 住み続けられるまちづくりと仲間づくりで いっそう頼りになる保健生協づくりをすすめましょう

中期計画3年目としての 2010年度重点課題

- ① 2ヶ所のグループホームと介護事業を軌道に乗せ、さらなる施設展開をめざし、安心して住み続けられるまちづくりをすすめよう
- ② 貧困と格差の是正がすすまない中で、無料低額事業を行う大田病院との連携を強め、よろず相談や青空健康相談会などでの相談活動を重視し、経済的理由での受診控えや自殺をなくすととりくみをひろげよう
- ③ 地域(購買)生協やNPO法人などとの連携を強めて、日常的に地域を見守るネットワークを拡げ、いっそう頼りになる保健生協をめざそう
- ④ 社会保障の後退をくい止め、後期高齢者医療制度の即時廃止をはじめとした保健・医療・介護・福祉の改善をすすめよう
- ⑤ 青空健康相談会、健康体操・ころばん体操班会、認知症サポーター養成講座、健康講座など、多彩な班会・学習会などを旺盛に開催し、地域・職域まるごと健康づくり運動をすすめよう
- ⑥ 区民健診やがん検診をはじめとした自治体健診、アスベスト検診などの充実を求めて自治体への働きかけを強めよう
- ⑦ 平和憲法を守り、憲法9条、25条をくらしに生かす運動をすすめよう

確認された2010年度の 生協組合員仲間増やし目標/班会目標

西品川	60世帯	40回	六郷	75世帯	50回
品川	5世帯	5回	羽田萩中	10世帯	50回
海岸八潮	20世帯	80回	蒲田西	5世帯	10回
ゆたか	75世帯	200回	馬込山王	30世帯	40回
大井	10世帯	20回	中央池上	10世帯	20回
中延旗の台	40世帯	70回	うき雪谷	70世帯	50回
五反田小山	10世帯	5回	大森糀谷	220世帯	140回
			大森西北蒲	60世帯	50回
全体合計		700世帯	740回		

大田病院が60周年の記念と同時に、回復期リハビリテーション病棟を含む新しい病院に生まれ変わったという時に、今総代会を開くのは非常に大きな意義があります。

そして、この1年間で500世帯を超える新しい仲間(組合員)を迎えることができました。総代のみなさまはじめ、多くのみなさまにご支援、ご協力をいただき、この機会にお礼申し上げます。

大森中診療所の1階では週

3回「なんでも相談会」を行っています。本場にさまざまな相談事があります。解決でき感謝されることもあります。すべて解決できる訳ではありません。やはりこれほどどうしても大本になる政治を変えていかなければと思っています。城南保健生協の目的のために力をつくしていきたいと思います。



▲多くの来賓の方が参加 ゆたか書道展▼



小関直彦理事長あいさつ

城南保健生活協同組合第35回通常総代会が6月19日(土)、大田区額町集会所大集会室で行われました。

お忙しい中お越しいただいた来賓のみなさまに心よりお礼申し上げます。また、当日は総代のみなさんに熱心に討議していただき、2010年度活動方針(案)、予算(案)など9号にもおよぶ議案を満場一致で採択す

ることができました。そして今回は「いのちを差別する『後期高齢者医療制度』をきつぱり廃止し、いのちを守る希望ある社会への転換を」という特別決議も採択されました。

今総代会を大きな力とし、地域における幅広い対話をすすめ、誰もが安心して住み続けられるまちづくり運動を広げていきたいと思います。

第35回総代会の発言(要旨)

ゆたか支部仲間増やし年間目標達成!!
 ステキな地域のつながり、そしてゆたかの家のとりくみ

豊支部は、仲間増やし目標を達成しました。ゆたか診療所の職員と一緒に地域訪問行動(仲間増やし行動)も行いました。



豊支部 忠鉢文子さん/宿利周子さん

「少し考えさせてください」「ゆたか診療所へ持っていきます」などいろいろありました。今回

の特徴は、地域をまわることとあわせて、組員とのつながりの中でお友だちなどにも広げることができたことです。

そういった仲間増やしを楽しく話し合う場として「ゆたかの家」があります。習字、手芸、絵手紙をやったり、おかみさんの日の健康チェックなどを行いながら広がっています。またこの地域の中で、60年のゆたか診療所の信頼と職員の方々の協力も大きなものがあります。地域の中の広がりをもっと強め、今年の後継者もつくっていかねばならないと思っております。

今、私は70歳になって70には70の幸せがあつて、今が一番幸せなんじゃないかなと思っております。

ゆたかの家で書道を担当している宿利です。会場に展示した『手紙』という詩ですが、曲がついた歌になっていたのを聞いてすばらしいと思ひ、みんなで書くことにしました。これを一人書いていたら、どうということはないのですが、みんなで行うと書きたことが非常に多いことだと思っています。80歳の方も「わたしも書きたい」ということでちゃんと持ってきてくれました。みんなが心をこめて書くということ、自分の気持ちをそこに書き込んで書いていくすばらしさ。これからもみなさんと一緒に書道をすすめていきたいと思います。

ドルフィンを通して
 て看護や介護の現場で働く人が
 喘息児を持つ父母の要求から



ドルフィン運営委員長 馬島知子さん

スタートしたドルフィンは今年で27年になります。現在は、誰でも入れるサークルとして毎週火・木・金と102人が水泳を通して健康づくりを行っています。ドルフィンは子どもが多いのが特徴ですが、金曜日は大人水中ウォーキングクラス、大人泳ぐぞクラス、障害者クラスも行っていきます。行事が多いのもドルフィンの特徴です。ハイキング、クリスマス会、バザー、スケート交流会、原水爆禁止世界大会への参加、海の合宿などです。

ドルフィンを通して生協とのつながりも広がってきました。父母や学生コーチの中から看護や介護の現場で働く人が広がりました。大田病院の看護師になった人や、ヘルパー不足で困っているヘルパー2級の資格をとって「すずらん」で働いてほしいと話したところ、父母として4人、大人クラスの会員1人、学生だったサブコーチ1人が働くことになりがんばっています。学生のコーチの中には将来「作業療法士」になりたいというので、資格取得後は大田病院で働いてもらえればと思っています。

週3日、100人以上の会員がいるので日常的な運営や準備など大変なこともあります。今後がんばっていきます。

